



「コロナ禍のこんな時だからこそ、見えた  
むらかみ互近所ささえくる隊員から見た  
地域の困りごと&助け合い」



むらかみ互近所ささえくる隊では、新型コロナウイルス感染症対策により、例年通りに会議が開催できなかったため、各隊員から地域の状況をレポートしてもらいました。

ある隊員からは、地域の茶の間に通ってきた人や、町内の一人暮らしの人が気になったので電話をかけてみたところ、「こんなに孤独感を味わったことはなかった」「誰とも会話せずに数週間過ぎた」「足腰も弱くなったような気がする」「声の出具合まで悪くなった」など、さまざま

な声が聞かれたとの報告を受けました。

た。

また、ある隊員からは、まちづくり協議会の女性会員の有志が、手作りマスク（子ども用）をボランティアで制作してくれたので、必要な人に配ったことなどを教えてもらいました。

中には、近所の高齢者から、「特別定額給付金」の手続きについて相談があり、手続きをお手伝いした隊員もいました。

改めて、地域の人からの声かけや交流がなければ、安心して暮らし続けることはできないと感じたこの期間でした。

新しい生活様式を取り入れた、新しい地域のつながり方を一緒に考える出前講座を行っています。8月は、台風や大雨などの災害が多い時期です。防災面でも地域のつながり、地域に合った助け合いについても考えていきたいと思います。

●問い合わせ

介護高齢課地域包括支援センター  
☎ 53・2111 (内線3432)



▲顔がわかる人が声を掛けてくれるとホッとします



▲大毎の田植えツアーに参加する百姓やってみ隊



まちづくり協議会通信 No.5  
～山北地区まちづくり協議会～



市HP関連ページ

「人材不足でも豊かに暮らし続けられる山北を！」

こちらは百姓やってみ隊より一歩踏み込み、大学生を対象に、夏休みを利用した1カ月間の地域滞在プログラムです。行事の手伝いを通じた深い交流により、終了後も学生が度々地域を訪れる関係ができています。

今後、人材不足の中で地域課題に対応していくためには、各種団体などの「連携」がより必要になってくると思います。

「外部人材の活用」と併せて「地域内の連携」にも、より一層力を入れていきたいと思っています。



▲行事の準備を地域の人と一緒にいる大学生

●問い合わせ

自治振興課自治振興室  
☎ 53・2111 (内線5111)